

デジタル化・DX事例報告

社員のDX推進で 手書き卒業！

elims株式会社

1



e l i m s 社名の由来

“elims”とは“smile”を逆さによんだ社名です。

elims株式会社は「くらしに笑顔をお届けしたい」という気持ちで創業しました。

©elims

2

事業内容

- ▶ elims株式会社は、岡山市に拠点を置く食品製造会社です。規格外を含む岡山県産の完熟フルーツ（いちじく、白桃、マスカットなど）を仕入れ、香料や着色料を使わずにジュース、ゼリー、ジャムなどに加工。「FIGMOG（フィグモグ）」ブランドとして、卸販売や通信販売を行っています。

3

食べているみたい
というご感想を頂きました！



完熟果物をたっぷりと使い、
果物本来の香りをゼリーの中にとじこめています。

代表的な商品

岡山県で栽培された
完熟果物をたっぷり使った
丸搾りジュース

岡山県産 made in Okayama

香料不使用



大人まで喜ばれる
美味にも

4

商品ができるまで



5

DXって何？役員の本音

- ▶ DX、とかIoTって最近よく聞くけど、うちは小規模だからあんまり関係ないかな～
- ▶ もっと、人員が増えたり、売り上げが増えて事務作業が煩雑になってから考えるかな～
- ▶ スタッフはデジタル化について、何も言ってこないからこのままでいいかな～
- ▶ バックヤードにランニングコストかけるよりは、機械の購入や売り上げにつながる費用にかけたい。（無料アプリでいいんじゃないか？）

7

心が動いた瞬間

誘い

セミナーへ
のお誘い
メール

勧誘

強いお誘いに
ちょっと
心が傾く

参加

色々な業種の事
例発表を聞い
て、現場のリア
ルな声が心に響
く

8

クラウドサービス支援事業のメリット

最長半年の
クラウドサービスの
使用料を支援

アプリ開発の
費用補助

クラウドサービス
選定の伴走

ベンダーの
選定や紹介

10

Season 1 : キントーンを導入開始

製造記録のフォーマットの開発

検索効率が向上を計画。

エクセルができなくても、操作が容易

月単位のコストが比較的安価

11

DX化計画の失敗



▶ 入力作業の増加（2倍以上の作業時間）

新しいフォーマット導入により、入力作業が増え、作業時間が長くなりました。

▶ スタッフの混乱（聞きたいけど聞きづらい環境）

スタッフが新しいフォーマットの使い方を理解できず、混乱が生じました。

▶ 手書き作業への回帰（遅滞なくするために止むを得ず）

最終的に従来の手書き作業に戻り、効率化は達成されませんでした。

13

Season2 : DXへの新たな光 ～IT利活用支援事業～

- ▶ 初期のDX課題
- ▶ 単なる記録作業だけでは、手書きでも目的は果たしている。別の目的が必要
- ▶ みんなが運用するためには、真に困っている所をDX化する必要がある。
- ▶ サポート体制などソフト面とハード面の両方を同時に環境を整える必要がある。

14

IT利活用支援 テーマの検討

課題検討

- 業務の流れの洗い出し
- 伝票の流れの洗い出し

社内の声

- 現場からの声としてアンケート実施
- どのような会社を望むか？

テーマ決め

- 在庫管理にフォーカス
- 繁忙期の在庫の把握に不便さがあった。(2時間/日)

15

ソフトの選定

洗い出し 20を超える在庫管理ソフトの洗い出し

検証 一つ一つ内容やコスト、操作性を検証

絞り込み オンライン会議やサポートへの問い合わせで細かい点まで聞き込み

優先順位 自社で外せない機能を順位化

18

選定理由と導入効果



キントーン連携可能

選定の最大の理由は、既存のキントーンと容易に連携できる点です。

運用幅の拡大

製造記録表の仕組みを在庫管理へ応用することで、運用の幅が広がり、多様な業務に対応可能になりました。

コストと操作性のメリット

ランニングコストの低さ・予約引き当て機能・タブレット対応が導入の大きなメリットです。

19

新システム導入の成果

2025年2月から
導入開始

勉強会を開いた。

慣れない入力作業に
半日かかり、放り投
げたい時期もあっ
た。

マスタも日々設定や
登録など進化してい
る。

短縮できる機能の充
見や、操作性も向上
し、工数が縮小し
た。

入力したデータを有
効活用できている。

他のアプリ開発にも
つながっている。

社外評価も
高くなった。

20

新システム導入の成果



操作説明会の実施

新システム導入後、勉強会を開催し、操作方法についての説明を行いました。これによりスタッフの理解が深まりました。



業務効率の向上

最初は入力作業で苦労しましたが、継続的な設定や登録により業務効率が徐々に上がりました。



データ活用と評価向上

日々データを蓄積・活用できるようになり、他アプリ開発や社外評価の向上にもつながっています。

21

Season2 成功した 要因は バトン 渡し

皆んなが毎日データを蓄積し、閲覧して活用している。

自分のデータが誰かに必要とされていることへで責任感が増した。

経営者の独りよがりではなく、社員に必要とってもらえることが何より嬉しい。